

博士前期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士前期課程は、明確な目標をもち、創造性豊かな優れた研究・開発能力及び指導能力を備えた専門職業人並びに研究機関等の研究者の育成又は国際化した高度な知識基盤社会において、多様な分野で幅広く活躍し、社会の価値創造に十分な貢献が期待できる知的人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、経営学研究科国際経営専攻博士前期課程では国際社会の経営的諸課題を、企業、社会、市民の観点から分析し、新たな方向性を提案できる国際化への対応可能な人材の育成を教育の最終目標としています。

現代社会では企業の事業活動のみでも、原材料から生産、物流、販売にいたる流れの中で、複雑で密接な相互依存の関係が形成されています。これらの課題に対処分析するためには、広域にわたる専門性とその実践応用性とを備えた人材が不可欠です。

経営学の基礎的学問と基本的理論の理解の上に、国際化した知識基盤への深い洞察力を身につけ、さらに経営学のより高度な研究能力を培うために、経営系、国際系、会計系の領域が配置されています。このような多様な知識を共有し、共用の機会を活かした人材が現在の社会で求められています。最先端の研究領域への理解力を身につけ、問題解決能力を高め、創造性を涵養していくことを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力のいずれかを身につけていると判定され、修士（経営学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 高度な教養人として、将来にわたって知的研鑽を積み、社会における多様な経験を学修に活用しながら、地域社会のさらなる価値創造に貢献しうる知的能力を身につけている。
- (2) 企業経営の制度・理論や国際経営について理解し、健全な企業人・市民としての考え方を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 情報化・グローバル化の進む知識基盤社会において実務に精通する専門職業人として、国際経営に関する専門知識を修得し理論と実践とを適切に組み合わせて実際のビジネスの場に活用することができる能力を身につけている。
- (2) 英語をはじめとする外国語能力を身につけ、国際的感覚を養っている。また、留学生においては、高度な日本語能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 専門職として、特定分野において、高度な専門的知識を身につけている。
- (2) 研究者として、国際経営の諸分野に関する体系的専門知識と実践的分析技能に基づき研究を進め、その成果を研究論文として発表・提出する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では、グローバル化時代にふさわしい研究者や専門職業人等の養成を共通指導目標としています。またこの時代では、知識を基盤にした広範囲な発想が特定企業を超えた社会

全般で求められるため、問題解決力のみならず創造力や生成力を修得することも指導目標にしています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1)国際化に対応可能な人材の育成を目的とし、教育課程のなかに国際マネジメント、国際会計、異文化コミュニケーション論等の国際関連科目を設置しています。
- (2)広域にわたる専門性とその実践応用性とを備えた人材の育成を目的として、経営系、国際系、会計系の3つの専門領域を設置しています。またそれぞれの系は基本と応用とに分かれている。主たる専門領域を中核に、従たる専門領域を放射線状に用意し、自主的に講義科目を選択しながら専門性を高めていく制度になっています。

2. 教育の方法と評価

- (1)初年度教育の実施にあたって、演習の指導教員および副指導教員の支援により、専門分野の授業を受講しつつ、1年次後学期以降には、応用分野、周辺関連分野の履修が可能となっています。また、年度初めにゼミ単位で、Web上の研究倫理教育に参加するように大学院生に指導しています。
- (2)多様な知識共有の機会を生かした人材育成を目的として、修士論文の二度に及ぶ中間公開発表機会を用意しています。公開の場での発表をとおして、表現能力を養う。また学ぶ幅を拡大することにより、思考プロセスの質を高めます。
- (3)多様な課題への対応能力育成や支援、推進を教育目的として、複数指導制を設定する。この制度は指導教授にも学習機会を与え、結果として教育の発想力向上へ反映されます。
- (4)高度な教育能力が身につく人材の育成を目的として、TA(ティーチング・アシスタント)制度を用意しています。
- (5)成績の評価については、厳格化するとともに成績評価の方法及び基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1)本研究科の博士前期課程は、明確な目標をもち、創造性豊かな優れた研究・開発能力及び指導能力を備えた専門職業人並びに研究機関等の研究者の育成又は国際化した高度な知識基盤社会において、多様な分野で幅広く活躍し、社会の価値創造に十分な貢献が期待できる知的人材を育成します。

2. 本専攻の求める入学者

- (1)経営学の分野で学部レベルの専門的知識を修得した者
- (2)企業、非営利団体等の国際化に対応できる一定の能力を備えた者
- (3)高度な情報化社会において専門的知識を活用できる一定の能力を備えている者
- (4)激動する国際社会において、経営学およびその周辺分野の理論を実践に活用し、さらに実践的経験を理論の構築にフィードバックさせることができるような柔軟性を有する者
- (5)高度な教養人として学ぶことに喜びを見出し、継続的に知識研鑽を積む意欲を有する者

3. 大学までの能力に対する評価(選抜方法)

- (1)一般入学試験では、経営学の分野における専門知識とその応用力ならびに英語読解力等に関する学部レベルの達成度および口述試験の評価により判断します。
- (2)社会人特別入学試験では、小論文と口述試験の総合的評価により選考を行います。
- (3)外国人留学生試験では、経営学の分野における専門知識とその応用力ならびに日本語読解力等に関する学部レベルの達成度および口述試験の評価により判断します。
- (4)特別選考では、特に学部の成績が優秀な者については筆記試験を免除し、口述試験のみで選考を行います。

博士後期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士後期課程は、確固とした信念をもち、創造性豊かな研究・開発能力及び教育能力を備えた高等教育機関の教育職員並びに研究機関の専門研究員の育成又は国際化した高度な知識基盤社会において、研究・教育機関以外の多様な社会で価値創造に貢献できる中核的人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、経営学研究科国際経営専攻博士後期課程では博士前期課程で修めた最先端の学問領域の知識と、修士論文にまとめ上げた成果をもとに、社会に向けて新たな価値創造を発信できる研究能力と、後進を育成できる教育能力を涵養します。

現代の社会における企業経営のみならず、社会全般にわたる諸課題を解決するには、国際化した知識基盤に基づく多面的かつ学際的な鋭い分析を加える能力が求められています。複雑な課題に対する独創的な解決策を提示しうるような知的独創性、その研究領域における学問的貢献につながるような優れた成果をまとめられる能力を育成することが不可欠になっています。この能力を身につけることで、専門研究員あるいは高度な職業人としてこれらの知識を運用でき、さらに教育者として学術研究の指導を行える役割を果たすことができます。

経営系、国際系、会計系の系統別研究を踏まえながらも、より学際的な視野から研究が進められるよう特殊研究領域を定め、指導教授のみならず副指導教授を配置して複眼的な視点から将来の価値創造に資する能力を身につけることを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判定され、博士（経営学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 経営分野の研究機関の専門研究員として、国際経営に関する高度な専門的・学際的知識を使って社会的に重要とされる課題の解決に取り組むことのできる能力を身につけている。
- (2) 知識基盤社会において価値創造に貢献できる人として、国際経営に関する高度な専門的・学際的知識を社会の多面的な場面において運用できる能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 研究者として、国際経営に関する専門知識を修得し、その理論を基盤として、実際のビジネスの場に活用することのできる能力を身につけている。
- (2) 英語をはじめとする高度な外国語能力を身につけ、国際的感覚を養っている。また、留学生においては、高度な日本語能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 経営学分野の研究・教育者として、国際経営に関する高度な専門的・学際的知識を身につけ、それを学術研究としてまとめる能力及び論文作成指導を行える能力を身につけている。
- (2) 現代の経営的課題を認識し、それを解決するような政策・戦略的な視点を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、国際経営に関する高度な専門的・学際的知識を身につけるため、講義、

演習、論文指導を組み合わせたカリキュラムを実施し、国際経営及びこれに関する学際的領域における新たな研究テーマの発掘と方法論的開拓を指導するとともに、高度知識基盤社会における多面的な実践課題の解決と価値創造能力が身につくよう、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 多面的・学際的研究を可能とするため、カリキュラムを「国際マネジメント特殊研究」、「国際会計・経営情報特殊研究」及び「国際経営環境特殊研究」の3つの分野に分け、研究プログラムを提供しています。
- (2) 後期課程のディプロマ・ポリシーを実現するために、指導教授を中心とした指導体制の強化を図るとともに、中間段階での学術発表の場を設けて高度な専門研究論文の作成を支援しています。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究に基づく成果を情報発信することを目的とした指導プログラムを用意しています。
- (2) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。
- (3) 成績の評価については、厳格化するとともに成績評価の方法及び基準を明確化している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 本研究科の博士後期課程は、確固とした信念をもち、創造性豊かな研究・開発能力及び教育能力を備えた高等教育機関の教育職員並びに研究機関の専門研究員の育成又は国際化した高度な知識基盤社会において、研究・教育機関以外の多様な社会で価値創造に貢献できる中核的人材を育成します。

2. 本専攻の求める入学者

- (1) 経営学分野の研究・教育者として、国際経営に関する高度な専門的・学際的知識を学術研究としてまとめるための基本的な能力を有する者。
- (2) 国際経営に関する高度な専門的・学際的知識を、将来、社会的な課題の解決に応用する意欲と柔軟性を有する者。
- (3) 知識基盤社会において価値創造に貢献できるよう、専門的・学際的知識を多面的に運用する意欲と行動力を有する者。

3. 博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

- (1) 一般入学試験では、専門的英語読解力等の筆記試験と修士論文および志望研究領域に関する口述試験の総合的評価により判断します。
- (2) 外国人留学生試験では、日本語読解力等の筆記試験と修士論文および専修科目に関する口述試験の総合的評価により判断します。
- (3) 社会人特別入学試験では、修士論文と志望研究領域に関する口述試験の総合的評価により選考を行います。